

まちづくり通信 第105号

鳥栖北地区まちづくり推進協議会 役員会兼運営委員会

5月12日(木)、センターにおいてまち協役員会兼運営委員会が開催され、運営委員出席者21名、委任状1名、合計22名にて成立し、下記の3件について承認されたのでご報告いたします。

- (1) 委員の承認について
- (2) 令和3年度事業報告及び決算について
- (3) 令和4年度事業計画(案)及び予算(案)について
尚、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、総会は中止とし、運営委員会一任とさせていただきます。



鳥栖北小学校

交通安全教室

いつも子ども達の安全を見守って下さる指導員さん。



4月20日、鳥栖北小学校において新1年生を対象にした交通安全教室が開催されました。鳥栖警察署の方や鳥栖北地区交通安全指導員さんたちが、横断歩道や通学路での注意点などを丁寧に教えて下さいました。まだ体の小さな1年生でも運転者側が認識しやすいように、手を挙げて横断する練習をしました。



信号をよく見て、青になっても左右をしっかり確認!

今月号からの
新コーナー！

鳥栖北地区まちづくり推進協議会では、10月16日(日)に開催予定の『長崎街道まつり』に合わせて「秋の爽やか北さんぽ」と題し、親子で楽しめるウォークラリーを企画中です。そこで、より楽しめるよう今月から長崎街道の周辺をひと足早く紙面で旅するコーナーを作ってみました！



長崎街道 第1歩 爽やか歴史さんぽ

今町周辺

江戸時代に長崎と小倉を結んだ「長崎街道」。別名シュガーロードとも呼ばれ、宿場町などがあった場所です。鳥栖地域の田代・轟木宿にもオランダ使節のカピタン行列や、任務のため往来する長崎奉行・幕府役人やあるいは商人などが盛んに往来・宿泊していました。



天満神社 (今町)

おた なんぼ

江戸時代の太田南畝の「小春紀行」という紀行文に「人家あり。今町といふ。道の左に石あり。庚申尊天といえり」と記されています。その庚申尊天のすぐそばに天満宮があります。

今町天満神社は明治時代に建立されました。

街道沿いの「松田家」は、江戸末期に奨励された蠶業で田代に蠶を最初に入れたと言われており、今でも東公園付近に残る蠶畑は紅葉時は美しい風景をみせてくれます。



庚申尊天 (こうしんそんてん)



庚申の信仰はもともと中国の「道教」の思想。大宝元年正月七日庚申かのえさるの日に、難波の天王寺の高僧に「一年に六度の庚申の日に身を清めて、南の方角に棚を作り、花を供え、灯明を灯し、種々の供物をお供えして、一心に十一面観世音菩薩と梵天帝釈、青面金剛童子、諸仏、諸神をお祈りしなさい。そうすれば五穀が豊熟して、自然と幸せになるだろう。」とお告げがあったことから始まりました。

えびすさま



大黒さま



天満宮にはえびすさまと大黒さまも祀られています。

ココもミドコロ!



中富記念くすり博物館

鳥栖市の一部がかつて対馬藩田代(たじろ)領で、そこで「田代売薬」が栄え、幕末に蠶の生産で佐賀藩の財政に貢献した歴史や、明治以降、九州の交通の要衝に成長する原動力となった鉄道についてのパネルや史料、映像などを紹介。

次回は
田代周辺です

